

令和 7 年 6 月 9 日現在

機関番号：12613

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A)）

研究期間：2022～2024

課題番号：21KK0212

研究課題名（和文）「帝国経験のリアリティを伝える歴史学」のための日韓共同研究

研究課題名（英文）Japan-Korea joint research to convey the reality of the imperial experience to the public

研究代表者

加藤 圭木（KATO, Keiki）

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：40732368

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,900,000円

渡航期間： 11ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代日本の帝国経験のリアリティを伝える歴史研究・歴史教育のあり方を、韓国における長期滞在を含む国際共同研究によって発展させることを目指したものである。その成果は、主として、地域社会の視点から帝国経験を考察し、市民や学生に向けて制作された加藤圭木監修、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『大学生が推す 深掘りソウルガイド』（大月書店、2024年）、ならびに植民地支配認識に関する市民向け書籍である加藤圭木監修、朝倉希実加ほか編『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』（大月書店、2023年）として結実した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、市民や学生が理解することが難しい日本の朝鮮植民地支配の歴史をはじめとした日本の帝国経験について、わかりやすく伝える方法を開発したことである。第二に、韓国に長期滞在し、韓国の研究者や市民との対話や共同研究を通じて、第一の問題について考察を深めたことである。特に、日本での市民向け書籍刊行の実践などを韓国で伝えるとともに、それらの書籍を韓国で翻訳紹介することができたことは特筆されるべき成果である。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to develop historical research and historical education that conveys the reality of the imperial experience of modern Japan through international joint research, including an extended stay in South Korea. The results of this research have culminated in "The University Students' Seoul Deep Dive Guide" (Otsuki Shoten, 2024), edited by Keiki Kato Seminar, which examines the imperial experience mainly from the perspective of local communities and was produced for citizens and students. Another important achievement is a book for the general public on the perception of colonial rule, "The Moyamoya of 'Japan and Korea' and Us" (Otsuki Shoten, 2023), supervised by Keiki Kato and edited by Kimika Asakura and others.

研究分野：朝鮮近現代史、日朝関係史

キーワード：帝国 植民地 韓国 朝鮮 歴史実践 パブリックヒストリー 対話 地域社会

1. 研究開始当初の背景

朝鮮半島や中国など東アジアと日本の間には、近代の戦争・植民地支配の歴史をめぐって葛藤が生じている。敗戦から80年近く経過し、世代交代が進む中で、歴史が今日も重大な問題として扱われていることは、日本社会、特に若い世代においては理解しがたくなってきている。戦争や植民地支配を論じることが、今日に生きる自分たちにとってどのような意味を持つのかが見えにくくなっているばかりでなく、歴史学の側もその点を十分には伝えきれていない結果である。

こうした状況下において、基課題である基盤研究(C)「帝国経験のリアリティを伝える歴史学の模索」(2021~2023年度)を遂行してきた。基課題では、入門書や教材開発を念頭に置き、学生・市民との共同作業も含めつつ、帝国経験のリアリティを伝える歴史研究・歴史教育の方法を探求してきた。その際、人びとが生きた場である地域社会史について緻密な研究を進展させるとともに、歴史教育(この場合は学校教育だけではなく、社会教育や市民の自主的な学習活動などをも含むものとする)の方法論の豊富化を目指し、教材開発をおこなうことを目指してきた。

本研究は、基課題を踏まえ、これを国際共同研究により発展させることを目指したものであった。

2. 研究の目的

本研究は、近代日本の帝国経験のリアリティを伝える歴史研究・歴史教育のあり方を検討することを目的とした基課題を、韓国における長期滞在を含む国際共同研究によって一層発展させることを目指したものである。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、本研究では、主として地域社会史を中心とした研究を進展させるとともに、歴史を若い世代や市民に伝えるための方法の開発を進めた。

主にソウル大学奎章閣韓国学研究中心、そしてソウル市立大学国史学科を訪問先とし、長期滞在し、史料調査やフィールドワークを行うとともに、現地の研究者や市民との対話や交流を深めていった。

4. 研究成果

(1) 歴史ガイドブックの刊行

加藤圭木監修、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『大学生が推す 深掘りソウルガイド』(大月書店、2024年)は、本研究の成果を端的に示すものである。本書は、ソウルの観光ガイドブックの体裁をとりながらも、主として日本の植民地期の歴史を解説するものである。地域社会(ソウル、あるいはその下位レベルの地域単位)の視点から帝国経験の歴史を読み解くと同時に、叙述方法やデザインなども含めて学生や一般市民にも広く読んでもらえるスタイルを目指したという点で、本研究の成果を総合したものといえる。

本書の制作にあたっては、韓国における最新の地域社会史に関する研究調査に加え、関連史料の調査、現地踏査を重ねた。単に入門的な知識を盛り込むだけではなく、最新の地域社会史の研究成果を反映させたという点も特筆される。

なお、本書は学部生や大学院生が制作の担い手となったという点でも、新たな歴史研究・歴史教育のあり方を模索するものであった。

(2) 市民向け書籍の刊行

以前に刊行した加藤圭木監修、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』(大月書店、2021年)の続編として、加藤圭木監修、朝倉希実加・李相眞・牛木未来・沖田まい・熊野功英編『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』(大月書店、2023年)を刊行した。本書では、韓国での現地調査や、韓国の研究者・市民との交流を踏まえるとともに、地域社会史研究の成果を反映した。

(3) 市民向けセミナーの実施

前掲『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』の刊行記念シンポジウムとして、市民向けのセミナーを2023年12月にオンラインで開催した。また、『大学生が推す 深掘りソウルガイド』の刊行記念シンポジウムとして、2024年3月にセミナーをオンラインで開催した。いずれも市民に向けて帝国経験について考える機会を提供するものであった。

(4) 成果の発信と日韓対話の進展

前掲『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』をめぐり歴史実践や日本における植民地支配認識について、韓国で多数の発表の機会を得た。具体的には、「第18回平和と繁栄のための済州フォーラム」(セッション:日韓歴史和解、主管団体:韓国・東北亜歴史財団)や国際シンポジウム「日本の産業遺産と消える声:記憶・人権・連帯」(主催:東北亜歴史財団)、国際学術シンポ

ジウム「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺 100 年： 真実・責任・記憶」(主催：韓国・国史編纂委員会、独立記念館、東北亜歴史財団、韓国学中央研究院) 翰林大学日本学研究所専門家招請懇談会などで口頭報告を行い、韓国において多くの研究者や市民と意見交換をすることができた。

(5) 韓国での翻訳書の刊行

前掲『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』は、『わたしたちが知らないことは悲しみとなります』(ハッピーブックストゥー、2024 年)として翻訳刊行され、韓国のメディアでもとりあげられるなど大きな反響を呼び、韓国の歴史研究・歴史教育関係者と新たにつながるきっかけとなった。

ついで『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』は、『モヤモヤ』を通して知っていく『日韓』の歴史とわたしたち』(ソミョン出版、2025 年)として翻訳刊行された。なお、上記の翰林大学日本学研究所専門家招請懇談会がきっかけとなり知り合った韓国の研究者が、同書の翻訳を担当してくれた。

(6) 日本での成果の発信

日本学術会議公開シンポジウム「歴史学が開く未来」や歴史教育者協議会 2024 年度大会で、上記の入門的書籍の刊行など本研究の成果について発表する機会を得て、多くの参加者と対話を深めることができた。また、『学習の友』、『女性・戦争・人権』、『歴史地理教育』、『季刊社会運動』に、日本における植民地支配認識の問題について論考を発表することができた。

(7) 国際研究集会の開催

独立記念館独立運動史研究所との交流を深め、2023 年は同館にて、2024 年は一橋大学にて研究集会を開催し、本研究課題に関して、研究交流を深めることができた。

(8) 地域社会研究の進展

地域社会史研究の史料収集や実証研究を進めた。その成果は多岐にわたるが、特に進展したのは植民地朝鮮の性搾取と地方税制度の関係、ならびに漁業と地域社会に関する研究であった。前者はソウル大学奎章閣韓国学研究センターコロキウムで発表し、現在活字化を目指している。後者に関しては加藤圭木「横山喜太郎と朝鮮漁民—永興湾のカキ養殖をめぐる」(内海愛子・木村健二編『植民地朝鮮に生きた日本人』世織書房、2025 年)として刊行される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 加藤圭木, 朝倉希実加, 李相眞, 沖田まい, 熊野功英, 根岸花子, 藤田千咲子	4. 巻 977
2. 論文標題 「日韓」のモヤモヤからわたしたちが出会った新たな世界	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 456
2. 論文標題 日本植民地支配下朝鮮のリアリティ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 季刊社会運動	6. 最初と最後の頁 113-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 861
2. 論文標題 若者の歴史認識について：日韓関係を中心に	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 学習の友	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 840
2. 論文標題 関東大震災100年への視点 戦争責任・植民地支配責任	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学習の友	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 22
2. 論文標題 大学生とともに日本軍「慰安婦」問題を学ぶ: 『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』の軌跡	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 8
2. 論文標題 公正な歴史認識定立のための日本の市民社会の努力 (朝鮮語)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東北亜歴史財団ニュース	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 公正な歴史認識を確立するための日本の市民社会の課題 (朝鮮語)
3. 学会等名 第18回平和と繁栄のための済州フォーラム (セッション: 日韓歴史和解、主管団体: 韓国・東北亜歴史財団) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 コメント日本の植民地支配認識と正義
3. 学会等名 日本の産業遺産と消える声: 記憶・人権・連帯 (韓国・東北亜歴史財団) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 河野談話と日本の植民地支配認識
3. 学会等名 < 河野談話30周年、日韓シンポジウム > 河野談話30年、その内容と意味を問い直す！ (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 植民地支配責任と朝鮮人虐殺：日本人の歴史認識の課題 (朝鮮語)
3. 学会等名 < 国際学術シンポジウム > 関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年： 真実・責任・記憶 (主催：韓国・国史編纂委員会、独立記念館、東北亜歴史財団、韓国学中央研究院) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 植民地支配認識と日本社会：歴史教育と市民運動の視点から (朝鮮語)
3. 学会等名 翰林大学日本学研究所専門家招請懇談会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 日帝強占期地域有力者と助興税に関する考察 (朝鮮語)
3. 学会等名 ソウル大学奎章閣韓国学研究センターコロキウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 加藤圭木監修、朝倉希実加・李相眞・牛木未来・沖田まい・熊野功英編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち	

1. 著者名 加藤圭木監修、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナル編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 大学生が推す 深掘りソウルガイド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 一橋大学大学院社会学研究科加藤圭木研究室・独立記念館韓国独立運動史研究所 2024 年度国際学術交流セミナー	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 一橋大学大学院社会学研究科加藤圭木研究室・独立記念館韓国独立運動史研究所 20243年度国際学術交流セミナー	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
韓国	ソウル市立大学		
韓国	ソウル大学		